

二宮信濃入道殿

六月十五日。光林寺賢□、慈尊院に、山城勸修寺領江沼郡郡家莊上郷内増覺名年貢錢のことに就き請文を出す。

七五九

【勸修寺文書】 山城
光林寺請文

郡家庄上郷内増覺名之間事、爲光林寺沙汰、毎年貳貫文可進上慈尊院殿之處、自去嘉慶元年及廿六ヶ年無沙汰之間、年々分五十餘貫文可致辨沙汰之處、爲院家以御優免之儀、貳十貫文可沙汰進之由蒙仰之間、只今十貫文進上候。於相殘十貫文者、自明年毎年貳貫文、五箇年之間可致其沙汰候。次本契約進上貳貫文、是自來秋毎年無懈怠可沙汰進候。萬一無沙汰之儀出來候者、以此狀爲支證、於御門跡可被訴申候。其時不可申一言子細候。仍爲後日請文之狀如件。

應永十九年 壬辰 六月十五日

賢 □ 在判

七月二日。足利義持、吉見家貞に、珠洲郡正院郷伏見等の地を安堵せしむ。

七六〇

【吉見文書】
足利義持 袖判

能登國正院郷内伏見・小泊・毛壽・蟬浦等長近江入事、早任相傳當知行之旨、吉見右馬頭家貞領掌、不可有相違之狀如件。

應永十九年七月二日

(應安五年六月廿三日の條參照。)

八月十一日。能登守護島山滿慶、天野慶景に、羽咋郡北浦一分地頭職を安堵せしむ。

七六一

【天野文書】

能登國直海保内北浦一分地頭職事、任相轉傳旨不可有知行相違之狀如件。

應永十九年八月十一日

島山滿慶 在判

天野彦次郎殿

○

七六二

【天野文書】

能登國直海保内北浦一分地頭職事、任御判之旨、可被全所務之狀如件。

應永廿 三月廿三日

祐 信 在判

天野彦次郎殿

十一月十日。足利義持、石川郡大乘寺に、同寺領の田畠屋敷等を安堵せしむ。

七六三

【大乘寺文書】 石川郡

加賀國押野庄内大乘寺領田畠屋敷以下目録在別紙事、早任明德四年七月十日安堵并當知行旨、寺家領掌不可有相違之狀如件。

應永十九年十一月十日

内大臣源朝臣 在判

應永二十年

癸巳

紀元二〇七三

五月四日。足利義持、天野慶景に、羽咋郡北浦一分地頭職を安堵せしむ。

七六四

【天野文書】

足利義持 袖判

能登國直海保内北浦壹分地頭職事、早任當知行之旨、天野彦次郎慶景可領知之狀如件。

應永廿年五月四日

十一月二日。預所筑前守知職、江沼郡菅生社に、片山津等の田畠を寄進す。

七六五

【菅生石部神社文書】 江沼郡

(前闕) 敷地方至者

東限 僧坊地 南限 湖上

西限 承仕畠 北限 天神馬場

田□參段卅代

此内貳段片山津老阿前在之
一段卅代柴山湯屋谷在之、此内ヨリ

天神五月五日神役農米一斗四升定

此外無諸役之